リハビリテーションに関する
国内研究者の広がりについて

帝京平成大学 中野キャンパス メディアライブラリーセンター　石立 裕子

目的　リハの研究者が増えていることを明らかにする！

Ⅰ．リハビリ需要の増加

・高齢化などを背景にリハビリテーションの需要は高い。
・国内誌におけるリハビリテーションに関する文献（以下、リハ文献）は増加傾向にあり、医中誌Webの記事区分でみると「解説」と「原著論文」の2区分で9割以上を占めていることがわかる（図1）。
・「原著論文」の増加はリハビリテーションを対象とする研究者の広がりを示しているのか。
・本調査では，リハ文献の著者の異なり数を調べ，研究者の広がりを明らかにすることを試みた。
・原著論文の割合は年間の原著論文数／年間の文献数で示している（図1）。

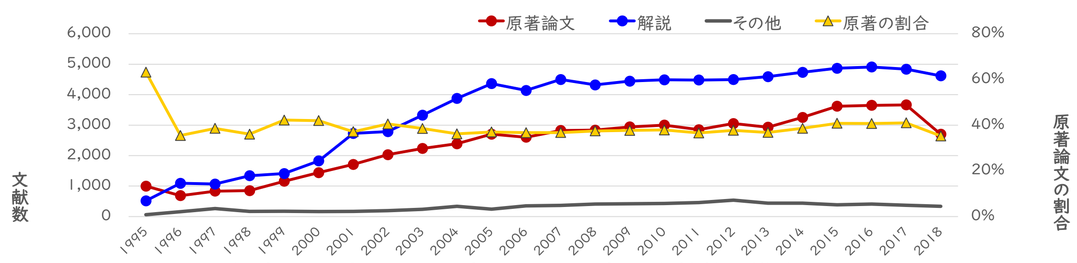

図1．記事区分でみる1995年から2017年の文献数の推移

Ⅱ．対象と・方法

【調査対象】 1995年～2017年に国内誌で掲載された文献
140,680件
【データベース】 医中誌Web
【検索日】 2019年6月12日
【検索式】 リハビリテーション/TH and (DT:1995)
and (PT=会議録を除く)
【調査方法】
・文献数等の推移を改めて確認するとともに、1995年から2017年のうち、「原著論文」の筆頭著者の異なり数などを明らかにし、研究者の広がりを明らかにする。
・ここでいう「原著論文」とは、医中誌Webの項目「記事区分」による。
・「原著論文」の著者を研究者とみなす。
・著者の異なり数は所属先が異なっても同名であれば1名とみなした。
・「上位10誌」という場合、各刊行年毎の文献掲載数上位10誌のこととする。

Ⅲ．著者の異なり数は増加している！

・対象全体の文献数、著者の異なり数、著者1人当たりの文献数を刊行年毎に示した（図2）。
・文献数と著者の異なり数は同様に増加。
・著者1人当たりの文献数はどの年代でも1．16～1．24とほとんど変わらない。
・著者そのものが増加しているといえる。

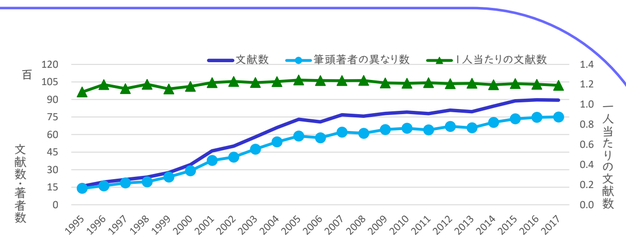

図2．文献数、著者の異なり数と1人当たりの文献数（全体）

・リハ文献の掲載数が多い上位10誌の文献数、著者の異なり数、著者1人当たりの文献数を刊行年毎に示した（図3）。
・図2と同様、著者1人当たりの文献数に変動は見られないが、著者の異なり数は増加傾向にある。
・上位10誌に限ってもおおむね同様の結果。

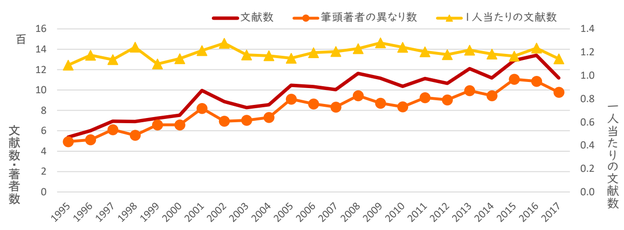

図3．文献数、著者の異なり数と1人当たりの文献数（上位10誌）

・原著論文数、著者の異なり数、著者1人当たりの文献数を刊行年毎に示した（図4）。
・95年は「作業療法」で原著数が著しく多かったが、96年以降は年々増加傾向にある。
・著者1人当たりの文献数が全体に比べて少なく、1．10～1．28となっている。

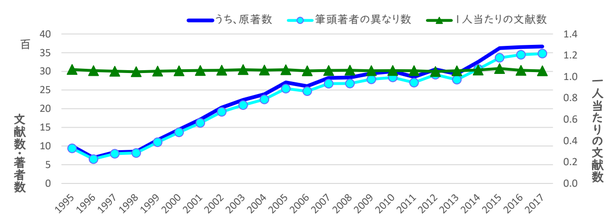

図4．原著論文数と著者数の推移（全体）

・リハ文献の掲載数が多い上位10誌の原著論文数、著者の異なり数、著者1人当たりの文献数を刊行年毎に示した（図5）。
・刊行年毎の原著論文数にバラつきがあり、雑誌により原著の割合が異なることがうかがえる。
・2010年代以降は著者の異なり数が増加傾向。
・全体の上位10誌に比べ、1人当たりの文献数は少ない。

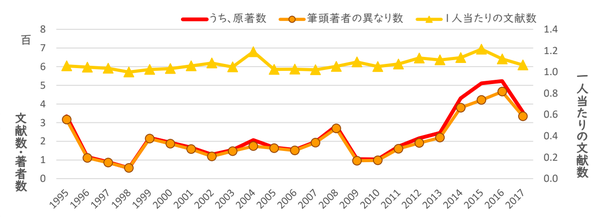

図5．原著論文数と著者数の推移（上位10誌）

Ⅳ．原著筆頭著者の所属先

・原著論文の筆頭著者の所属先について、1996年と2017年で文献数の多い順に並べて比較した。
・1995年を対象から外した理由は、原著数がこの年のみ著しく多く、その大多数は1つの雑誌に掲載されたものだったため、サンプルとしてふさわしくないと判断したため。
・大学は学部や学科が違う場合でも同じ所属先とみなし、大学院や大学付属病院も同一とみなした。病院は科が違う場合でも病院名が同じであれば同じとみなし、それぞれカウントした。
・1996年の原著論文数は687件あり、所属先は387に分かれた。文献数の多い上位25位のうち、1位以外はすべて大学となった（表1）。
・2017年の原著論文数は3,666件あり、所属先は2,026に分かれた。文献数の多い上位27位のうちには、海外の大学や国立医療センターや民間病院なども含まれバライエティーに富んだ結果となった（表2）。

表1．原著論文の筆頭著者所属先(1996年)

順位	筆頭著者の所属機関名	文献数
1	横浜市総合リハビリテーションセンター	14
2	金沢大学	11
3	埼玉医科大学	9
4	秋田大学	8
4	聖マリアンナ医科大学	8
4	筑波大学	8
4	東海大学	8
4	東京女子医科大学	8
4	藤田保健衛生大学	8
4	北里大学	8
11	京都大学	7
11	信州大学	7
11	慶応義塾大学	6
11	東京大学	6
11	日本大学	6
11	名古屋大学	6
17	岡山大学	5
17	群馬大学	5
17	広島大学	5
17	神戸大学	5
17	大阪大学	5
17	帝京大学	5
17	東北大学	5
17	北海道大学	5
17	和歌山県立医科大学	5

表2．原著論文の筆頭著者所属先(2017年)

順位	筆頭著者の所属先	文献数
1	Daegu University	24
2	国際医療福祉大学	23
3	筑波大学	22
4	茨城県立医療大学	16
4	獨協医科大学	16
6	大阪大学	15
6	昭和大学	15
8	佐賀大学	14
9	岡山大学	13
9	群馬大学	13
11	金沢大学	12
11	京都府立医科大学	12
11	東京大学	12
11	名古屋大学	12
11	国立病院機構熊本医療センター	12
11	新潟医療福祉大学	12
11	新潟大学	12
11	聖隷クリストファー大学	12
19	東北大学	11
19	国立病院機構鳥取医療センター	11
19	福岡大学	11
19	北海道大学	11
23	国立長寿医療研究センター	10
23	順天堂大学	10
23	兵庫医科大学	10
23	弘前大学	10
23	大樹会総合病院回生病院	10

結論　リハの研究者は増えているといえる！

Ⅴ．リハ研究の場は広がっている。

・1995年から2017年までの推移を示し、2014年以降もおおむね増加傾向にあることがわかった。
・文献全体、各年毎の上位10誌、原著論文、上位10誌のうち原著論文の4つの条件で、文献数や著者の異なり数が増加している一方、1人当たりの文献数は安定していることから著者そのものが増加していることがわかった。原著論文も同様であり、研究者の広がりを示しているといえる。

・原著論文の筆頭著者の所属先について、1996年と2017年とで比較したところ、1996年では文献数の多い所属先はほとんどが大学だったが、2017年では国立医療センターや、民間病院などバライエティに富んだリハ文献が生産されていることが明らかになった。

Ⅵ．今後の予定

・「原著論文」の筆頭著者の所属先について調査できたので、今後は職種について明らかにしていきたい。コメディカル・スタッフによるリハ文献（とくに原著論文）はどの程度生産されてきているのか明らかにしたい。

・リハ文献が掲載される雑誌も年々広がりを見せている。
図書館として提供できる文献は現状どの程度あるのか。
商業誌ではない雑誌も多くあるため、OA化されているのか、灰色文献化しているものが多いのかなどを明らかにしたい。